



1 <成果指標と実績>

<成果指標と実績>				
成果指標	初期値	R5年 目標値	R3年 実績(評価)	
①「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合	1年	39.7%	50%	35.9%(F)
	2年	28.2%	60%	31.6%(E)
	3年	76.5%	80%	76.5%(-)
②1週間の家庭学習時間の平均	1年	9.7h	12.0h	8.6h(F)
	2年	11.7h	14.0h	12.7h(C)
	3年	27.0h	30.0h	27.0h(-)
③自ら進んで授業に取り組む生徒の割合	1年	45.4%	50%	39.7%(F)
	2年	32.3%	60%	32.9%(E)
	3年	47.5%	70%	47.5%(-)
④授業内容等に興味があって学校を選じた生徒の割合		23.0%	R6年 50%	



2 <年間の取組報告>

榛原高校は、静岡県の本指定及び文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定（令和元～3年）を受け、地域と連携した教育活動を通して「地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」を目標として活動に取り組む「HAFプロジェクト」(Haibara Achieving Futures Project) を推進してきた。希望者が参加する課外活動が多く、目標を広く達成していくために、さまざまな活動を教育課程内に位置付け、組織的・体系的に学校全体の取組としていくことが課題であった。

今年度から学校設定教科「地域創造探究」を新設して、課外活動を教育課程内に取り込んだ学習プログラムの開発や、活動の振り返りや評価方法の研究を行った。コロナ禍の制約下、可能な限りの取組を行い、成果をあげることができた。

3 <特徴的な取組>

- 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）による運営指導委員会・コンソーシアムの体制を中心に、オンリーワン・ハイスクール（グローバル・ハイスクール）事業を推進・運営
 - 文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の運営指導委員会・コンソーシアム代表者委員会と学校運営協議会において、オンリーワン・ハイスクールにおける取組について協議、評価を行った。学術機関、地元企業、行政関係者等からの指導助言に加え、生徒の研修等の課外活動について協力・支援を受けることで、組織的・体系的指導を行うことができた。
- 学校設定教科（科目）のプログラム開発、探究活動の実践及び評価方法についての研究
 - 学校設定教科（科目）を教育課程内に設置し、1年生を対象とした「地域創造探究Ⅰ」を実践。カリキュラム開発及び評価方法の研究を行った。「地域創造探究Ⅰ」での探究活動の成果をクラス及び学年において発表し、その中から選ばれた代表が、牧之原市長に成果報告をオンラインで行った。
 - カリキュラムアドバイザーの静岡大学教育学部島田桂吾准教授に御指導いただき、カリキュラム開発会議を5回実施した。
 - Glocal Academy 代表理事岡本尚也氏による「探究」についての講演会（「これからの社会と自分と向き合う力(何のために探究や課題研究をするのか)」）を実施した。



北海道研修で札幌開成中等教育学校を訪問、交流



南九州研修で宮崎大宮高校を訪問、交流



イングリッシュキャンプに66人の生徒が参加



「地域創造探究Ⅰ」における企業人講話



オンラインを活用した台湾高雄市立新莊高級中等学校との交流

(3) 学校設定教科「地域創造探究」の実施

ア 「地域創造探究Ⅰ」で、地域の人材を活用した取組を実施した。

- ・対話・グラフィック研修(市民ファシリテーター)
- ・市長講話(牧之原市長)
- ・企業人講話(地元企業6社)
- ・「地域の課題を知る」出前講座(行政・NPO法人・事業主等)

イ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、矢崎部品株式会社、静岡空港、TDKへの訪問が中止となったが、1年生の希望者が、企業フィールドワークとして、吉田町の株式会社ヤマザキを訪問した。工場を見学し、事業内容の説明などを受けた。

(4) グローバル研究

ア グローバルな視野と国際感覚を育成のための、オンラインを活用した英語によるコミュニケーション活動を実施した。

- ・台湾高雄市立新荘高級中等学校との交流に3年生37人、雲林県福智高級中等学校との交流にグローバル部9人が参加した。
- ・デルタ航空職員、パイロットとの交流に2年生38人が参加した。
- ・3月17日にシンガポール国立大学とのオンライン・グローバル講座を計画しており、40人程度が参加する見込みである。

イ 海外研修の代替として北海道研修、南九州研修を実施して、北海道12人、南九州20人が参加した。

(5) 地域リーダー育成プロジェクトへの参画

- ・牧之原市が主催する「地域リーダー育成プロジェクト」に、1・2年生33人が参加し、同Bコース9人は牧之原市長に活動報告を行った。

(6) 外国語による言語活動の充実及び異文化理解の推進

- ・イングリッシュキャンプを8月に3日間の日程で、国内在住の12人のネイティブ・スピーカーを講師として学校に招き実施し、66人の生徒が参加した。
- ・全日制グローバル部が、定時制の外国籍の生徒との交流を行った。お互いが異文化について理解を深めた。

(7) 高大連携の実施

- ・静岡県立大学の職員、学生を講師に招いてのキャリアデザイン講演会を実施した。
- ・連携協定を結んでいる静岡大学教育学部の講義を本校7人の教員が聴講し、研修した。
- ・静岡大学教職大学院生を学校運営協議会の見学に受け入れた。

4 <成果と課題>

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を設置することにより、体系的に活動を積み重ね、適切な評価を行うことによって「自ら課題を設定し、他者と協働してより良い解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒」の育成に取り組んでいくことを実践して、一定の成果をあげることができたと考えている。地域の外部人材を活用した対話を重視した活動を通して、生徒たちは協議するスキルやコミュニケーション能力を身に付け、校外外でのさまざまな学習成果発表会等の経験を重ねることにより、思考力、表現力を高め、リーダーとしての資質を育成することができた。

今後の課題は、そうした生徒の学習活動をいかに継続させ、そしてどのように深い学びに繋げていくかということにある。次年度以降、学校設定教科(地域創造探究)実施・推進組織の改善、学校設定科目(地域創造探究Ⅲ、発展地域創造)の設置及び評価方法の修正、学習プログラムの開発及び検証、パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習の実践を計画的に実施していくことで、継続して成果をあげていきたい。

The infographic is divided into several sections:

- 2021の活動 成果と課題**: Lists activities like 'Regional Creation Inquiry' (school setting subject), 'Off-site activities' (global research, foreign language activities, local leader training, global club), and '2021 Regional Creation Inquiry I Annual Syllabus' (introduction, work, inquiry, publication).
- 今年度の成果-学校設定教科「地域創造探究」を設定-**: A central section with a '2021 Regional Creation Inquiry I Evaluation' diagram showing a '9' rating and 'BA' levels. It lists evaluation materials like 'Recycling sheets' and 'Works'.
- 学校設定科目「地域創造探究Ⅰ」の年間シラバス**: A timeline from 2018 to 2021 showing the progression of the subject, including 'Local Leader Training' and 'Global Research'.
- Haibara Future 2022~ 学校のポリシーとして継続・自走**: A section on future goals and school policy, mentioning 'Continuation of connections' and 'Improvement of inquiry content'.